横浜･みなとみらい､音楽フェスで地域振興 一大エリアに

データで読む地域再生 関東・山梨

#データで読む地域再生 #東京 #神奈川

2023/1/13 21:00 [有料会員限定]

ぴあが2020年に開業した「ぴあアリーナMM」（横浜市西区）

音楽エンターテインメント市場の拡大が街のにぎわい創出にもつながっている。関東・山梨の2022年上期の音楽公演回数は東京都が5013本、次いで神奈川県の817本だったが、19年上期と比較した増減率は神奈川が93.6%増と突出し、全国で最も増えた。特に横浜市西区のみなとみらい地区は音楽会場の新設ラッシュにより、一大エンターテインメントエリアを形成しつつある。

データで読む地域再生

市場が拡大する一方で、東京での音楽会場の不足と既存施設の大規模改修が重なり「東京からの交通アクセスの良さと、大規模な敷地を確保しやすい点から、みなとみらい地区での音楽会場の新設が相次いだ」（市関係者）。

シンボルとなったのは20年に開業した「ぴあアリーナMM」（約1万席）だ。チケット販売大手のぴあが、三菱地所から約1万2千平方メートルの土地を借り受けて建設した。自ら会場を設けてチケット販売増にもつなげる狙いがあったという。これをきっかけに、ぴあと三菱地所は資本業務提携し、共同出資会社も設立。ぴあの広報担当者は「エンターテインメントを生かした街づくりで連携を深める」と話す。

みなとみらい地区では23年秋に世界最大級の約2万席を誇る「Kアリーナ横浜」が開業する。約1.5キロメートル圏内に世界でも類を見ない規模で音楽会場が集積する。市や地元経済界はナイトタイムエコノミーの活性化、宿泊客の増加、観光収入全体の底上げなどを期待している。

千葉県は22年上期の音楽公演回数が19年上期よりは減ったものの、長期的に会場誘致に力を入れてきたことで13年上期と比べると69.1%も増えた。最近は千葉市内の会場で大規模な音楽フェスが相次いで開催されており「フェスの街」として注目されている。

「ロック･イン・ジャパン・フェスティバル」の開催地となった千葉市の蘇我スポーツ公園

22年8月には千葉市中央区の蘇我スポーツ公園で国内最大級の野外音楽フェス「ロック・イン・ジャパン・フェスティバル」が開かれた。19年までの会場は茨城県ひたちなか市だったが、新型コロナウイルスの影響で20年と21年は中止となり、主催者は感染対策などを理由に千葉市に移転した。

同じ8月には同市美浜区のZOZOマリンスタジアムなどで音楽フェス「サマーソニック」も開かれ、「国内3大フェス」のうち2つの会場が千葉市内だ。市では今後もイベントの誘致とともに、参加者に市内で飲食や宿泊をしてもらえるような取り組みを検討している。

東京都は22年上期の音楽公演の増加率は19年上期と比べて7.0%増と全国5位だが、公演回数は全国トップだ。

大勢のライブの観客でにぎわう羽田イノベーションシティ（東京都大田区）

羽田空港に近接する東京都大田区の複合エリア「羽田イノベーションシティ」には3000人規模が収容できる「Zepp Haneda」があり、ライブ開催日は多くの観客が訪れる。同エリアの土地を所有する大田区の担当者は「同エリア内のホテルや飲食店を利用する観客が多く、にぎわい創出につながっている」と実感する。

Zepp Hanedaによると、ここ半年の稼働率は9割を超えている。リアルの臨場感を味わいたい観客が多いという。後藤宏行支配人は「アーティスト数が増えていることもライブ増加の背景にある」とみている。

2022年10月に開催された音楽イベント「1000人ROCK ACOUSTIC」（群馬県渋川市）

22年上期の音楽公演が19年上期に比べ13.5%増で、増加幅が全国3位となった群馬県。「1000人ROCK FES.GUNMA」は全国から募集した音楽ファン約1000人が伊香保グリーン牧場（同県渋川市）に集まり、人気ロックバンドの曲を一斉に演奏するという参加型イベントだ。

イタリアの音楽イベントをモデルに、渋川青年会議所の50周年記念事業として17年に始まった。実行委員長の柄沢純一郎さんは「フェスが終わった後、牧場を散策したり、伊香保温泉に足を延ばしたりしてゆっくりと観光を楽しむことができる」とアピールする。20～21年はコロナ禍のため中止となり、22年は規模を縮小した代替イベント「1000人ROCK ACOUSTIC」を10月に開催した。

（仲村宗則、桜井芳野、相松孝暢、本田幸久）